

六八番

おほとも 大伴の  
みつ 三津の浜なる  
わす 忘れ貝  
いへ 家なる妹を  
わす 忘れて思  
へや

六九番

くさまくら 草枕  
たひゆ 旅行く君と  
し 知らませば  
きし 岸の埴生に  
にほはさ  
ましを

おほきすめらみこと 太上天皇、  
よしののみや 吉野宮に幸す時に、  
たけちのむらじくろひと 高市連黒人  
の作る歌

七〇番

やまと 大和には  
な 鳴きてか来らむ  
よなこどり 呼子鳥  
きま 象の中山  
よ 呼びそ  
こ 越ゆなる

さきのすめらみこと 大行天皇、  
なにはのみや 難波宮に幸す時の歌

七一番

やまとこ 大和恋ひ  
ね いの寝らえぬに  
こころ 心なく  
すさきみ この州崎廻に  
たつ 鶴  
な 鳴くべしや